

北見工業大学学報

第 298 号 (2020 年 3 月号)

目 次

告	辞	令和元年度学位記授与告辞……………	3
入	試	令和 2 年度大学院入学試験 (第 2 回) を実施……………	5
		令和 2 年度工学部一般入試を実施……………	6
研 究 助 成		令和元年度外部資金の受入状況……………	7
人 事		人事異動……………	8
受 賞		本学初の「北海道科学技術奨励賞」ダブル受賞……………	12
		社会環境系の白川龍生准教授が 2019 年度北海道雪氷賞 【北の六華賞】を受賞……………	13
		本学大学院生が北の国・森林づくり技術交流発表会で 森林技術部門 奨励賞を受賞……………	14
		本学学生が電子情報通信学会北海道支部学生奨励賞を受賞……………	15
諸 報		本学学生が「北の四大学ビジネスプラン発表会」で サッポロビール賞を受賞……………	16
		本学を会場に北海道防災総合訓練(厳冬期)を実施……………	17
		カーリングアイステクニシャン Cody Hall 氏を招き 研究協力とアイスメイク勉強会を実施……………	18
		オホーツク農林水産工学連携研究推進センター 第 2 回シンポジウムを開催……………	19
		「オホーツク寒冷地防災パーク」に出展……………	21
		オホーツク・スマート農業セミナー2020【畑作】に参加……………	22
		事務職員のための講演会を実施……………	23
		第 35 回北方圏国際シンポジウムに参加……………	24
	令和元年度就職イベントを開催……………	25	
	地元中小企業経営者と学生の懇談会を開催……………	26	

	個人情報保護研修を実施.....	27
	令和元年度学生表彰.....	28
目 誌	2月・3月.....	29

= 告辞 =

令和元年度学位記授与告辞

学部卒業生、ならびに大学院修了生の皆さん、学位取得、誠におめでとうございました。在学中の皆さんの努力が実り学位記を授与されましたこと、北見工業大学の教職員を代表いたしまして、お祝い申し上げます。

この度、晴れて学士の学位を取得した方は374人、修士の学位は126人、博士の学位は1人の方が取得しました。この中には13人の外国人留学生が含まれています。学位記が授与されたことは、もちろん皆さん自身の学修成果の賜物ではありますが、ご家族や友人、研究室の仲間、そして指導教員など、周囲のさまざまな支援があってこそ成し得たことでもあります。是非、支援していただいた方々への感謝の気持ちを忘れずに、これまでの経験を今後の人生に活かしてください。

さて、例年北見市民会館で開催している学位記授与式は、大変残念なことに新型コロナウイルスの感染拡大のため、今年は開催を断念することになりました。北海道では、急速な感染拡大を受け、知事が緊急事態宣言を発表する状況となり、週末の外出自粛が要請されました。本学としましても、卒業生・修了生の皆さんは勿論のこと、その他の学生や教職員への感染拡大を可能な限り防ぐため、苦渋の選択をいたしました。大切な思い出になるはずだった学位記授与式を挙行できないことは、学長としましても大変残念ですし、皆さんには心よりお詫びいたします。

今回の新型コロナウイルス感染の拡大は、教育界、経済界をはじめ国民全体の日常生活に多大な影響を及ぼしました。中国湖北

省武漢市で最初の感染が報告されて以来、ウィルス感染は瞬く間に全世界に広がりました。未知のウィルス感染によるパンデミックは、これまでの長い歴史の中で、幾度となく繰り返されています。そのような過去の経験が十分に活かされずに社会は大きく混乱し、有効な手段が見つからないまま感染が急速に拡大しています。改めて、未知の感染被害に対する人間社会の無力さ、脆弱さを認めざるを得ません。

また、このウィルス感染拡大は世界経済のグローバル化と無関係とは思えません。グローバル化の波がヒト・モノ・カネ・情報の流動性を高め、ICTの発展が様々な分野において社会のボーダーレス化を加速させました。ボーダーレスな社会は一見、利便性が高く高効率で、多くの人にとって満足度の高い生活が期待できる反面、今回のように感染症のパンデミックや薬剤耐性菌の拡散を助長しています。さらに富の集中や所得格差を拡大し、自国第一主義を台頭させるというパラドックスも指摘されています。

この世界規模で起きたグローバル化による産業界・経済界を中心としたパラダイムシフトには、インターネットや通信衛星に関わる科学技術の進歩が密接に関係しています。皆さんが本学で学んだ工学は、自然科学を母体としながら基礎科学の進歩と技術の発達とともに、より豊かな生活を求める人類の欲求が、その発展を長きに渡り支えてきました。工学の発展が人々に豊かさを与え、人類のさらなる夢を創造してきたのは事実です。その反面、科学技術への過度な期待が、人類を苦しめる新たな感染症

を拡大させることもあるのです。

これは現在、世界各国で発生している自然災害についても、同様な事例であると言えるのではないのでしょうか。経済的利益を第一に追求する、短絡的な技術革新の発想が地球環境を破壊し、地球規模で自然災害の発生トレンドを変え、世界各国で次々と想定外の被害を発生させています。これからの将来、急激にグローバル化が進む社会を生き抜いていく技術者には、目先の利益に翻弄されず、ボーダーレス社会で重要視されるダイバーシティに適応し、多様なニーズを正確に把握して、それを正しく分析する能力が必要となるでしょう。

これから社会人となる皆さんには、急激な社会の変革に呑み込まれることなく、広い視野で多角的に状況を分析し、高度な専門的見地から課題を解決に導く力を磨き上げ、真に人間社会に貢献できるよう、ご成長いただくことを願っています。是非、本学で身につけた知識や経験、人間ネットワークを最大限に活かし、日本社会を正しく先導する技術者としてご活躍ください。

この度の学位記授与、そして社会人としての新たな門出を祝い、卒業生・修了生皆さんの益々のご活躍を祈念いたしまして学長告辞といたします。

令和2年3月19日
北見工業大学長 鈴木 聡一郎

= 入試 =

令和2年度大学院入学試験（第2回）を実施

（入 試 課）

令和2年度大学院工学研究科博士前期課程入学試験（第2回）を2月12日（水）（学力検査）、13日（木）（面接試験）に実施しました。各専攻の合格者数等は下表のとおりです。

また、令和2年度大学院工学研究科博士後期課程入学試験（第2回）を2月12日（水）（面接試験）に実施しました。各専攻の合格者数等は下表のとおりです。

博士前期課程

専攻名	募集区分		ユニバーサル コース入試		外国人留学生 特別入試		高等専門学校 専攻科生特別入試		学部3年次学生 対象入試	
	一般入試		志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
機械工学専攻	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
社会環境工学専攻	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0
電気電子工学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
情報システム工学専攻	2	2	1	1	0	0	0	0	1	1
バイオ環境化学専攻	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
マテリアル工学専攻	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	13	11	1	1	0	0	0	0	1	1

博士後期課程

専攻名	募集区分		社会人入試		外国人留学生入試	
	一般入試		志願者	合格者	志願者	合格者
生産基盤工学専攻	1	1	1	1	3	3
寒冷地・環境・ エネルギー工学専攻	0	0	2	2	0	0
医療工学専攻	0	0	0	0	0	0
合 計	1	1	3	3	3	3

令和2年度工学部一般入試を実施

(入 試 課)

令和2年度工学部一般入試について、1月27日(月)から2月5日(水)までの願書受付期間内に前期日程420人、後期日程1605人の出願がありました。

前期日程は3月6日(水)に合格者を発表し、後期日程は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から個別学力検査を中止し、センター試験の成績、調査書の内容を総合して判定を行い、3月20日(金)に合格者を発表しました。両学科の合格者数等は下表のとおりです。

前期日程

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
地球環境工学科	76	205	143
地域未来デザイン工学科	88	215	177
合 計	164	420	320

後期日程

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
地球環境工学科	66	760	175
地域未来デザイン工学科	77	845	169
合 計	143	1605	344

= 研究助成 =

令和元年度外部資金の受入状況

(研究協力課)

	令和2年2月1日から 令和2年3月31日までの合計		前号までの合計		令和元年度累計	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
共同研究	7	1,850	120	100,650	127	102,500
受託研究	2	9,350	14	39,713	16	49,063
奨学寄附金	15	9,004	73	66,448	88	75,452

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	新職名(発令事項)
2. 3. 1	(新規採用)	(ほんま けいいち) 本間 圭一	工学部地域国際系教授
2. 3. 31	工学部機械電気系教授	羽二生 博之	定年退職
〃	工学部社会環境系教授	三上 修一	定年退職
〃	工学部基礎教育系教授	三波 篤郎	定年退職
〃	工学部基礎教育系教授	木村 章男	辞職
〃	工学部機械電気系助教	岩館 健司	任期満了退職
〃	施設課長	谷口 秀俊	定年退職
〃	技術部大学運営支援グループ長	大森 誠一	辞職
〃	学長企画室長	中居 大亮	辞職(文部科学省へ転出)
〃	学務課長	宮家 康浩	辞職(北海道大学へ転出)
〃	総務課主任	笠川 勇将	辞職(情報・システム研究機構へ転出)
〃	研究協力課主任	中山 智香子	辞職(文部科学省へ転出)
2. 4. 1	理事・副学長	柴野 純一	理事・副学長、 教育支援機構長及び学生教育支援センター長 (任期:令和4年3月31日まで)
〃	理事・副学長	川村 彰	理事・副学長、 学術推進機構長及び環境安全センター長 (任期:令和4年3月31日まで)
〃	工学部情報通信系教授	平山 浩一	副学長及びキャリアアップ支援センター長 (任期:令和4年3月31日及び令和3年3月31日まで)
〃	副学長	渡邊 康玄	副学長及びプロジェクト研究推進センター長 (任期:令和4年3月31日まで)
〃	副学長	榮坂 俊雄	副学長、学術情報機構長、 アドミッションセンター長及び図書館長 (任期:令和4年3月31日まで)
〃	副学長・事務局長	三枝 広人	副学長 (任期:令和4年3月31日まで)
〃	工学部応用化学系教授	川村 みどり	学長補佐 (任期:令和4年3月31日まで)
〃	工学部社会環境系教授	山下 聡	学長補佐及び社会環境工学専攻主任 (任期:令和4年3月31日まで)
〃	副学長	山田 貴延	学長補佐及びものづくりセンター長 (任期:令和4年3月31日まで)

発令年月日	現職名	氏名	新職名（発令事項）
2. 4. 1	工学部機械電気系教授	星野 洋平	機械電気系長及び機械工学専攻主任 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部社会環境系教授	早川 博	社会環境系長及び技術部長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部情報通信系教授	鈴木 正清	情報通信系長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部応用化学系教授	松田 剛	応用化学系長及びマテリアル工学専攻主任 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部基礎教育系教授	山田 浩嗣	基礎教育系長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部地域国際系教授	藤井 享	地域国際系長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部社会環境系教授	亀田 貴雄	地球環境工学科長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部情報通信系教授	三浦 則明	地域未来デザイン工学科長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部機械電気系教授	田村 淳二	電気電子工学専攻主任 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部情報通信系教授	原田 建治	情報システム工学専攻主任 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部応用化学系教授	新井 博文	バイオ環境化学専攻主任 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部基礎教育系教授	伊関 敏之	各専攻共通主任 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部応用化学系教授	阿部 良夫	生産基盤工学専攻主任及び共用設備センター長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部機械電気系教授	小原 伸哉	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻主任 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部応用化学系教授	大津 直史	医療工学専攻主任 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部社会環境系教授	南 尚嗣	環境・エネルギー研究推進センター長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部情報通信系教授	榭井 文人	冬季スポーツ科学研究推進センター長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部応用化学系教授	村田 美樹	オホーツク農林水産工学連携研究推進センター長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部社会環境系准教授	川尻 俊三	地域と歩む防災研究センター長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部地域国際系教授	有田 敏彦	社会連携推進センター長及び知的財産センター長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部地域国際系教授	本間 圭一	国際交流センター長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部情報通信系教授	升井 洋志	情報処理センター長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	工学部機械電気系教授	奥村 貴史	保健管理センター長 (任期：令和4年3月31日まで)
〃	(新規採用)	(もりた しんいち) 森田 慎一	工学部機械電気系教授
〃	工学部社会環境系准教授	川口 貴之	工学部社会環境系教授
〃	(新規採用)	(さわだ おきひろ) 澤田 宙広	工学部基礎教育系教授
〃	工学部基礎教育系准教授	野田 由美意	工学部基礎教育系教授

発令年月日	現職名	氏名	新職名（発令事項）
2. 4. 1	工学部基礎教育系准教授	柳 等	工学部基礎教育系教授
〃	工学部機械電気系助教	梅村 敦史	工学部機械電気系准教授
〃	工学部社会環境系助教	齊藤 剛彦	工学部社会環境系准教授
〃	工学部応用化学系助教	平井 慈人	工学部応用化学系准教授
〃	工学部応用化学系助教	宮崎 健輔	工学部応用化学系准教授
〃	(新規採用)	(なかざと こうすけ) 中里 浩介	工学部基礎教育系准教授
〃	(新規採用)	(くぼ ひろみ) 久保 比呂美	工学部地域国際系講師
〃	(新規採用)	(すずき まもる) 鈴木 衛	工学部地域国際系講師
〃	(新規採用)	(いわだて けんじ) 岩館 健司	工学部機械電気系助教
〃	鳥取大学総務企画部総務企画課長	(かわむら まさる) 川村 優	戦略企画室長
〃	小樽商科大学施設課長	(なりた よしみち) 成田 芳道	施設課長
〃	旭川医科大学総務部総務課長	(こばやし かずひろ) 小林 和宏	学務課長
〃	情報図書課長	梶原 茂寿	情報図書課長（係長兼務）
〃	学務課係長	栄浪 晋也	戦略企画室副室長
〃	研究協力課副課長（係長兼務）	斉藤 靖子	総務課副課長
〃	財務課副課長（係長兼務）	森本 典宏	財務課副課長
〃	研究協力課副課長	松沼 拓夫	研究協力課副課長（係長兼務）
〃	学務課副課長（係長兼務）	内山 彰	学務課副課長
〃	学務課学生支援室係長	川島 恵也	学務課副課長（係長兼務）
〃	学長企画室係長	三宮 智仁	戦略企画室係長
〃	研究協力課係長	反保 聡史	財務課係長
〃	学務課学生支援室係長	原 亜喜子	研究協力課係長
〃	情報図書課係長	本庄 哲朗	研究協力課係長
〃	学務課主任	秋元 宏太	学務課係長
〃	入試課主任	松家 奈津美	学務課学生支援室係長
〃	研究協力課係長	森原 早紀	学務課学生支援室係長
〃	財務課事務職員	源藤 拓也	財務課主任

発令年月日	現 職 名	氏 名	新職名（発令事項）
2. 4. 1	学務課事務職員	安藤 ひかる	総務課事務職員
〃	施設課事務職員	泊 晋	研究協力課事務職員
〃	学長企画室事務職員	上澤 森	研究協力課事務職員
〃	情報図書課事務職員	原田 壮志	入試課事務職員
〃	(新規採用)	蠣崎 捷太	財務課事務職員
〃	(新規採用)	岩城 恵	施設課事務職員
〃	(新規採用)	佐藤 響	学務課事務職員
〃	(新規採用)	今野 由貴	情報図書課事務職員
〃	技術部教育研究支援グループ 技術専門員	信山 直紀	技術部高度専門職（分析技術支援担当）
〃	技術部大学運営支援グループ 技術専門職員	奥山 圭一	技術部大学運営支援グループ長
〃	技術部教育研究支援グループ 技術専門職員	坪田 豊	技術部大学運営支援グループ技術専門職員

= 受賞 =

本学初の「北海道科学技術奨励賞」ダブル受賞

(研究協力課)

この度、「令和元年度 北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞」において、機械電気系・オホーツク農林水産工学連携推進センターの星野洋平教授と社会環境系・地域と歩む防災研究センターの川尻峻三准教授の2人が、本学として初めてにして同時に北海道科学技術奨励賞を受賞しました。

北海道科学技術奨励賞は、北海道を主な拠点として、本道の発展に寄与することが期待される科学技術上の発明、研究を行い、今後の活躍が期待される45歳未満の若手研究者に、知事表彰として贈られるものです。

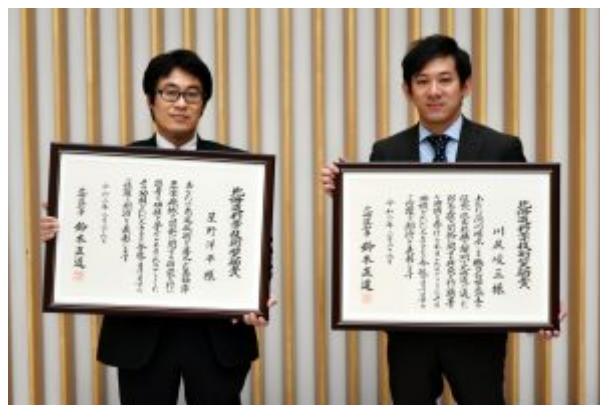
星野教授の功績は「北海道農業の労働力不足の打開に向けた先進技術導入による高効率農業機械の研究・開発」。

労働力不足が問題となっている北海道の

農業に着目し、カボチャの自動皮むきロボットの開発や、(公財)北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団)のご協力のもと農薬散布を行うブームスプレー用の回転型除振装置を開発し、農業機械の開発によって農作業の効率化や自動化に貢献した点が評価されました。

川尻准教授の功績は「河川増水による橋台背面盛土の侵食・流出機構の解明と北海道に適した対策工法の開発」。

北海道で近年問題となっている豪雨災害による橋台背面盛土の侵食とそれに伴う道路陥没に着目し、地盤工学や河川工学、橋梁工学の教員・学生と分野横断的な体制を築き、河川増水による橋台背面盛土の侵食される領域を解明し、鉄製かご及び補強材で構成される簡易で安価かつ北海道に適した対策工法の開発が評価されました。



(左から) 星野教授、川尻准教授

社会環境系の白川龍生准教授が 2019 年度北海道雪氷賞 「北の六華賞」を受賞

(社会環境系)

この度、社会環境系の白川龍生准教授が、公益社団法人日本雪氷学会北海道支部 2019 年度北海道雪氷賞「北の六華賞」を受賞しました。

北海道雪氷賞は、当該年度の「北海道の雪氷」掲載論文や、積雪寒冷地の社会生活や北海道支部の活動に貢献した団体や個人から選定されるものです。今回、受賞論文として選考された論文名は「機械学習を用いた積雪粒子画像の自動判定」。

本論文は、最新の機械学習法を取り入れた手法によって雪質の自動判定に成功した

もので、これまで問題となっていた、観測者の主観が影響する可能性を排除し、機械学習法による客観的な雪質の判定を初めて可能にしました。

この成果が、雪崩の危険性評価および積雪モデルの検証など、雪氷防災や環境変動分野だけでなく、雪氷教育分野への貢献も大きく期待され、雪氷学の発展や積雪寒冷地への社会貢献に顕著な役割を果たす研究として認められての受賞となりました。

なお、授賞式は 5 月 29 日（金）に行われる予定です。

日本雪氷学会北海道支部北海道雪氷賞：<https://www.seppyo.org/hokkaido/award>



「機械学習を用いた積雪粒子画像の自動判定法」概要

本学大学院生が北の国・森林づくり技術交流発表会で 森林技術部門 奨励賞を受賞

(オホーツク農林水産工学連携研究推進センター)

この度、本学大学院生の館林雅治さん(博士前期課程 社会環境工学専攻1年)が、2月18日(火)～19日(水)に札幌市で開催された令和元年度北の国・森林づくり技術交流発表会で森林技術部門において奨励賞を受賞しました。

発表した課題は、「屋根型構造の路盤を有する林業専用道の排水性能に関する基礎的研究」であり、本学 オホーツク農林水産工学連携研究推進センター 副センター長(林業担当)川口貴之 准教授の指導の下、鶴居村森林組合並びにオホーツク地域創生研究パーク(北見市若松)で行った研究成果です。

今回の受賞について、館林さんは「元々、地盤工学の専攻であり林業業界での考えや背景を理解するのに大変苦労しましたが、

川口先生と色々な会議や打ち合わせに参加させて頂き、鶴居村森林組合の方をはじめ、多くの方の協力を経て、徐々にではありますが理解することができ、今回このような賞を受賞できて、大変嬉しく思います。現在は屋根型林道の問題点を改善するために、改良型屋根型林道をオホーツク地域創生研究パークに構築し、現地計測を行っています。さらには路盤補強効果に関する室内試験を行い、路盤厚の低減等の検討も行っています。次年度以降はこのような林道に対しての散水試験や浸透流解析を実施し、北海道のような積雪寒冷地に適した林道に向けて、より一層研究に励みたいと思います。」と、研究の苦勞と今後の研究計画についてお話しいただきました。益々のご活躍を期待しております。



館林さん

本学学生が電子情報通信学会北海道支部学生奨励賞を受賞

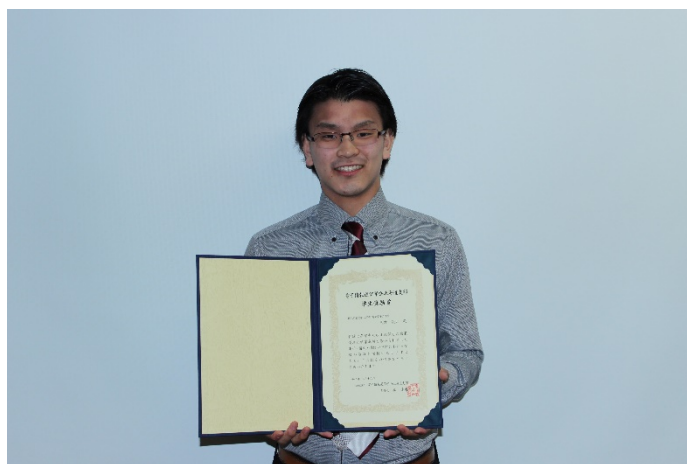
(オホーツク農林水産工学連携研究推進センター)

令和2年3月19日(木)、本学学生の天野溪太さん(電気電子工学科4年)が、電子情報通信学会北海道支部学生奨励賞を受賞しました。

この賞は、電子・情報・通信の分野において優れた業績を持つ学生で、かつ、さらなる飛躍が期待される学生に与えられる賞です。天野さんは、電子情報通信学会総合大会で「Raspberry Pi を用いたスマート農業支援」、電子情報通信学会北海道支部インターネットシンポジウムで「導入しやすいスマート農業～メロンの育成を通して～」など、学部生でありながら積極的に学会発

表を行っていること、大学院に進学して現在の研究をより一層発展させることによってさらなる研究成果が期待されるという点が評価され、本学からは唯一の受賞者となりました。

天野さんは、本学オホーツク農林水産工学連携研究推進センターにも所属する武山眞弓教授及び佐藤勝准教授の指導のもと、IoTなどのセンサを駆使しつつも安価で導入しやすく、かつ人にも優しい使い勝手のよいスマート農業を目指して日々研究を遂行しています。本学大学院進学後のさらなる飛躍が期待されます。



受賞を喜ぶ天野さん

= 諸報 =

本学学生が「北の四大学ビジネスプラン発表会」で サッポロビール賞を受賞

(学 務 課)

昨年12月14日(土)、札幌国際ビルにおいて「北の四大学ビジネスプラン発表会2019-北の大地を大学連携で結ぶ-」が開催され、本学から出場した地域マネジメント工学コース3年生のグループ9人がサッポロビール賞受賞の榮譽に輝きました。

「北の四大学プロジェクト」とは、小樽商科大学、公立はこだて未来大学、帯広畜産大学、本学の道内単科系四大学のネットワークを強化し、大学生を主役とした新しい地域貢献プロジェクトに関する取り組みや成果を発信するとともに、新たな地域貢献事業立ち上げに結びつけようという試みです。

今回の発表会には、各大学から5グループずつ参加し、それぞれの活動の集大成を報告しました。発表会には、主催者である小樽商科大学の和田健夫学長とともに、本学の鈴木聡一郎学長も出席しました。

本学地域マネジメント工学コース3年生のグループ(池田颯さん、今関理人さん、吉田隼也さん、渡部一樹さん、菊池優斗さん、近藤諭史さん、福山宙樹さん、両角優希さん、渡會佑さん)は、「POKKARI～手ぶらで行ける寒冷地旅行～」と題した、オホーツクエリアを訪れる旅行者に対する防寒用具貸し出しサービスを企画し、具体的なプランを発表しました。同コース担当教員(榭井文人教授、升井洋志教授、西野寛明非常勤講師)のアドバイスを受けながら、半年以上をかけてビジネスプランの構築に取り組み、その結果として見事、本賞を受賞しました。

今後このプロジェクトを継続し、道内大学の連携を強めるとともに、地域への貢献につなげていきたいと考えています。受賞おめでとうございます!



発表の様子



授賞式の様子



受賞後の記念写真

本学を会場に北海道防災総合訓練(厳冬期)を実施

(地域と歩む防災研究センター)

1月25日(土)から26日(日)にかけ、本学体育館及び講堂において北海道防災会議が主催する北海道防災総合訓練(厳冬期)が実施されました。本学地域と歩む防災研究センター(SAFER、川尻峻三センター長)も後援として参加し、停電を想定した避難所運営訓練の会場となった第一体育館において、深夜も含めて各種データを測定しました。

講堂では、北見市・北海道から、姉妹都市で昨年の台風19号で被害に遭った宮城県丸森町への派遣報告を含めた防災講話も実施され、道内各地から防災関係者が200人以上集まり、また、自衛隊は足湯や食事提供等に参加するなど、大規模な訓練となりました。

その他、防災関連用品の展示も実施され、SAFERからも活動内容等を紹介するパネルを展示しました。200部用意していたパンフレット・ロゴ入り保冷バッグも在庫切れになり、参加者からSAFERへの強い関心がうかがえました。

室外の温度が氷点下14℃程まで下がる中、訓練は無事終了し、測定したCO₂濃度や室温の観測速報値が訓練参加者へ広く周知されました。さらにデータの解析を行い、SAFERから北海道や北見市へ報告する予定です。SAFERでは引き続き、関係機関と協力し地域の防災力の向上を目指して研究を進めていく所存です。



体育館でCO₂濃度や室温などの各種データを計測する SAFER 教員と学生



講堂での防災講話の様子



自衛隊が設置した入浴施設

カーリングアイステクニシャン Cody Hall 氏を招き 研究協力とアイスメイク勉強会を実施

(冬季スポーツ科学研究推進センター)

冬季スポーツ科学研究推進センター（榊井文人センター長）は、1月下旬～2月上旬にかけて、カナダのビクトリアカーリングクラブにてアイステクニシャンとして活躍中の Cody Hall 氏をお招きし、研究協力とアイスメイク勉強会を実施しました。

Hall 氏は、カナダカーリング協会が公認するレベル2プロフェッショナル・アイステクニシャンであり、ビクトリアカーリングクラブの主任アイステクニシャンを務める他、カナダ選手権大会や地区大会など数々の公式大会のアイスメイクを手掛けています。今回の滞在では、冬季スポーツ科学研究推進センターの研究ミーティングに参加いただき、情報の分析や試合情報に基づいて戦術を予測する人工知能の開発に関する研究テーマやカーリングストーンの挙動とペブルの関係に関する研究テーマにつ

いて、アイスメイクのプロとしての観点からアドバイスや考察を頂き、大変有意義なミーティングとなりました。

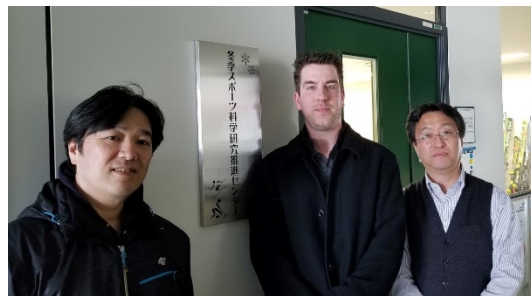
また、主に学内関係者やカーリング協会の会員を対象としたアイスメイク講習会を河西建設カーリング場（北見市花月町6-2）にて実施しました。

参加者らは、国際交流センターの久保比呂美特任講師の通訳を介して、Hall 氏より製氷の方法やストーンのメンテナンスなどの講習を受けました。カナダの現状や多彩な経験談を交えた講習に、参加者らは熱心に聞き入っていました。

Hall 氏には、今後も冬季スポーツ科学研究推進センターの研究や、大学が関わる地域のカーリング事業等に継続してアドバイスなどご協力いただく予定です。



(左から) ミーティング中の Hall 氏、
プタシンスキ准教授(右)



研究打合せ後にセンターの前で
(左から) 榊井センター長、Hall 氏、亀田教授



河西建設カーリング場でアイスメイクの状況
を確認する Hall 氏



アイスメイク勉強会の様子

オホーツク農林水産工学連携研究推進センター 第2回シンポジウムを開催

(オホーツク農林水産工学連携研究推進センター)

2月1日(土)、本学講堂において、「持続可能な第一次産業に向けて」をテーマに、オホーツク農林水産工学連携研究推進センター第2回シンポジウムを開催しました。

開会にあたり、鈴木聡一郎学長の挨拶があった後、武部新衆議院議員からご来賓の挨拶をいただきました。パネルディスカッションでは、センター長の村田美樹教授がコーディネーターを務め、津別町農業協同組合営農支援室審査役の有岡敏也様、鶴居村森林組合参事の門間孝厳様、湧別漁業協同組合参事の森義文様から第一次産業の持続に焦点を置いた、農・林・水産それぞれの特徴や問題点、また工学・先端技術への期待と本学に期待することなどのお話をいただき、当センター各部門の副センター長である星野洋平教授、川口貴之准教授、新井博文教授と意見を交換しました。

特別講演では、北海道放送株式会社(HBC)で放映中である「森崎博之のあぐり王国北

海道」の出演など、テレビでも活躍するTEAM NACSの森崎博之様にお越しいただき、「生きることは食べることをテーマに、出演する各番組を通して培った多彩な農業の知識と食に関して、笑いも交えた巧みな話術でご講演いただきました。

ポスター発表では、各ポスターの発表者が壇上で簡単に研究内容を紹介した後、3号館ロビーに会場を移し、シンポジウムに参加した多くの第一次産業に関係する企業の方や生産者の方に興味を示していただき、有意義な討論を行うことができました。

シンポジウム閉会後には情報交換会が開催され、参加者が交流を深めるとともにより深い情報交換が行われました。また、令和元年8月から募集していた第1回CAFTE「オホーツクの農林水産業」フォトコンテスト2019の表彰式も行いました。

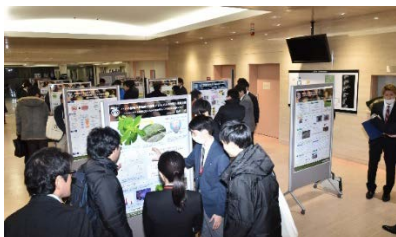
なお、来年度には第3回シンポジウムの開催を計画しています。



パネルディスカッションの様子



壇上でのポスター発表の様子



3号館ロビーでのポスター発表の様子



フォトコンテスト最優秀賞受賞の萩倉さん(左)と山田さん(右)

<「オホーツクの農林水産業」フォトコンテスト 2019 受賞者>



最優秀賞
機械工学科
山田 慎也 さん
萩倉 淳平 さん



農業部門 優秀賞
地域未来デザイン工学科
松尾 涼太 さん



水産業部門 優秀賞
社会人
黒田 貴司 さん



林業部門 優秀賞
社会環境工学専攻
平井 泰輔 さん

「オホーツク寒冷地防災パーク」に出展

(地域と歩む防災研究センター)

2月9日(日)に実施された「オホーツク寒冷地防災パーク(主催:NHK 北見放送局)」に白川龍生准教授(地域と歩む防災研究センター、社会環境系)が実験ブースを出展しました。

第50回北見冬まつり期間中に開催された同イベントは、北見駅中央プロムナード(みんとロード)を会場に北見工業大学の他にも日本赤十字北海道看護大学や網走開発建設部などが防災をテーマにブースを展開し、多くの来客で賑わいました。

白川准教授のブースでは「雪や雲に詳しくなろう!」をテーマに、ドライアイスを用いて筋状の雲を発生させる実験や、雪の結晶に見立てたアイロンビーズを用いて雪

の形や強さを比較する実験が展開され、子どもから大人まで幅広い年齢層の方に参加いただきました。

実験に参加した方からは、「普段目にしていない雪や雲の構造や、北見工業大学で行われている研究内容が少し知ることができて良かった」との感想をいただき、多くの方に高い関心を持っていただく事ができました。

地域と歩む防災研究センターでは、これからも地域のイベントなどに積極的に参加し、地域の防災力の向上に貢献したいと考えております。お近くで見かけた際はぜひご参加ください。



出展した実験の様子

オホーツク・スマート農業セミナー2020【畑作】に参加

(社会連携推進センター)

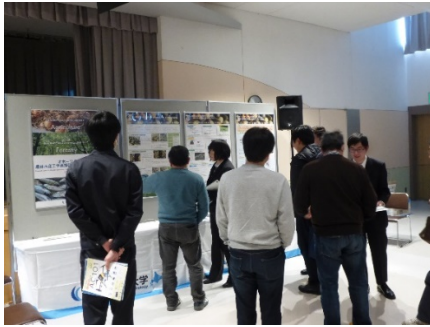
2月12日(水)、端野町公民館を会場に「オホーツク・スマート農業セミナー2020【畑作】」が開催されました。

オホーツク総合振興局や農業関係機関が構成員として参加するオホーツク・スマート農業推進会議が主催する本セミナーには、農業従事者や研究機関、官公庁などから300人を超える参加がありました。会場ではセミナーの他、スマート農業に関連する本学を含む10団体・企業の展示が行われました。

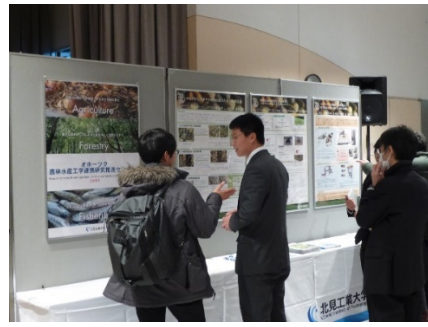
本学からはオホーツク農林水産工学連携研究推進センターの楊亮亮助教と学部4年生の荒井ルシアさん、竹内優作さん、博士前期課程1年辻蒼星さんの学生3人が参加し、「AIを用いたカボチャ自動収穫のため

の果実認識」「傾斜地走行精度向上する研究ー持続可能な大規模精密農業の実現をめざしてー」「コンプライアンス機構によるかぼちゃ表皮除去の完全自動化に向けた開発」についてパネル展示を行いました。セミナー終了後にはブース出展者の展示紹介が行われ、楊助教がオホーツク農林水産工学連携研究推進センターの紹介や、自身が取り組む研究の紹介を行いました。

本セミナーへの参加は農業従事者の声を直接聞くことのできる貴重な場となり、また他機関との連携強化に繋がる機会にもなりました。今後も一次産業を工学的な視点で支援する本学の取り組みを広くPRしていきます。



パネル展示の様子



展示紹介の様子

事務職員のための講演会を実施

(総務課)

2月13日(木)、令和元年度事務職員のための講演会を開催し、業務の都合によりやむを得ず欠席となった職員を除く全ての事務職員が参加しました。

この講演会は、事務職員の資質向上を目的とした研修の一環として従来から開催しており、外部講師による国立大学事務職員として求められる知識・感覚・能力等についての講演等を通じて、事務職員としての自覚を促し、更に業務及び業務見直しへの一助とすることを目的に実施しています。

今年度は講師として、文部科学省高等教育局国立大学法人支援課国立大学戦略室長の浅原寛子氏を招き、「国立大学法人の中期

目標・計画及び評価について」と題した講演が行われました。

浅原氏は講演の中で、中期目標・中期計画及び評価に関する基本的な事項から国立大学法人評価と認証評価の違い、第3期中期目標期間の評価や第4期中期目標・中期計画の策定に至るまで、解説を交えながら分かりやすくご講演いただきました。

今回の講演会は、参加した職員一人一人が本学の強みや特色を常に意識しつつ業務に取り組むことの重要性を改めて認識する貴重な機会となりました。



講演する浅原室長



受講の様子

第 35 回北方圏国際シンポジウムに参加

(国際交流センター)

2月16日(日)、17日(月)の二日間、紋別市で開催された第35回北方圏国際シンポジウムに招待され、本学留学生15人が参加しました。

初日は、開会式と記念レセプションが行われ、他の参加者と交流を深めることができました。また、レセプションでは本学の韓国人留学生と中国・台湾人留学生の2組が歌を披露し、会場は温かい拍手に包まれました。留学生たちは、「緊張したが、心を込めて歌うことができた」と話していました。

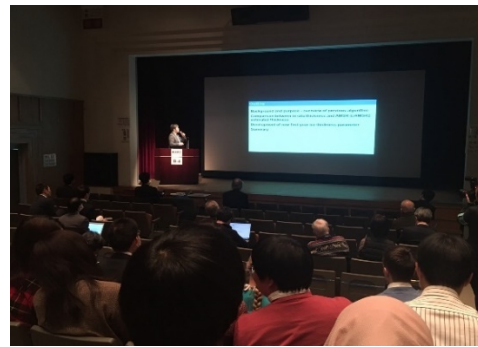
二日目は、午前中に学術分科会、午後から施設見学に参加しました。学術分科会では、地球温暖化の影響による環境問題等に

ついて、最新のデータを交えながら発表が行われました。午後からは、オホーツク流水科学センター、オホーツクとっかりセンター、オホーツクタワーを見学し、流水やオホーツクの生態系について学ぶことができました。最後にはガリニコ号に乗船し、間近で迫力ある神秘的な流水を見ることができました。留学生たちには想像以上に分厚い流水に感動し、中には流水の上を歩いてみたいという学生もいました。

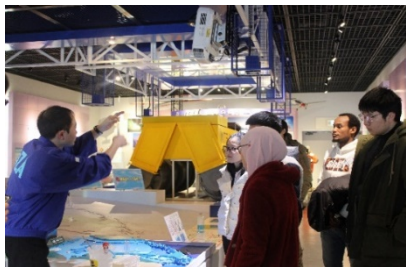
この二日間、留学生たちは講演や施設見学を通し、知見を広めることができましたようです。本シンポジウムの主催者である紋別市様をはじめ関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



レセプションでの記念撮影



学術分科会の様子



オホーツク流水科学センター見学の様子

令和元年度就職イベントを開催

(学 務 課)

2月下旬の就職活動が解禁になるこの時期に、学内で2つの就職イベントを開催しました。

2月19日(水)には、本学第二体育館で、本学、オホーツク商工会議所協議会、北見市大卒者情報センター、そしてKITげんき会との共催により「オホーツク合同企業セミナー」を開催しました。本セミナーには北見市を含む近隣6市町の企業47社(団体)が参加、本学学生及び道内外の大学・専門学校等から参加した学生約40人が企業担当者の話に熱心に耳を傾けていました。

また、2月20日(木)～22日(土)の三日間、本学第一・第二体育館で「合同企業研究会」を開催しました。本研究会は、午前・午後のそれぞれ冒頭に実施される全体説明会で、各企業が自社をPRするプレゼンテーションを行った後、ブース形式で1社あたり4回の企業ブース説明を受け、学生

が1日最大8社を受講できる形式で実施しました。また、午前の部と午後の部の間には情報交換会が開かれ、企業担当者、就職担当教員、学生等が参加し、就職に関する様々な話が交わされました。三日間の参加企業数は計272社で、参加学生数は延べ2,164人となりました。

たて続けに開催したイベントにより、参加学生には一部疲れの色も見られましたが、全国の企業との出逢いを求めて積極的に担当者と交流する姿が見られ、「webページでは見つけられない情報を聞くことができた」「いろんな企業の特徴を知ることができて、比較することができた」との声もあり、3月の就職活動解禁に向け満足感のあるイベントになったようです。また、大学としても学生の就職活動を支援するため、次年度に向けてさらに実施方法などを検討していく予定です。



オホーツク合同企業セミナーの様子



合同企業研究会(企業PR)の様子



合同企業研究会(企業ブース)の様子



合同企業研究会(情報交換会)の様子

地元中小企業経営者と学生の懇談会を開催

(社会連携推進センター)

2月25日(火)、社会連携推進センター会議室を会場に、地元中小企業経営者と学生の懇談会が開催されました。

一般社団法人北海道中小企業家同友会オホーツク支部(以下「同友会」)が地元企業と学生が意見交換する場として企画した本懇談会には、同友会事務局長を含めた地元企業等経営者5人と、本学学生9人、教員1人が参加しました。

懇談会では、簡単な自己紹介の後、これからの北見のあり方について意見交換を行いました。最初は緊張していた学生も、自分が取り組んでいることや将来の夢などを時間が経つにつれ積極的に話すようになりました。経営者からは「学生の視点や地元

企業に対する忌憚のない意見を聞くことができ、有意義な時間となった」との感想をいただきました。学生からも「経営者や年の離れた人の話を聞くことができ興味深かった」、「学年や学科の違う学生と交流が持てた」といった声があり、「地元企業との接点を今後も持ちたい」との意見があがりました。

同友会と本学は2004年6月に包括連携協定を締結し、これまで合同公開講座の実施や学生のインターシップなど様々な活動を進めています。地域に生きる大学として、地元企業との更なる良好な関係を築いていきたいと考えています。



懇談会の様子

個人情報保護研修を実施

(総務課)

2月26日(水)、株式会社インソースの岡本有希氏を講師に迎え、個人情報保護研修を実施しました。

本研修は、本学が保有する個人情報及び特定個人情報の取扱いについて理解を深め、個人情報保護に関する教職員の意識の高揚を図ることを目的として毎年開催しています。

今年度は、コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、講師・司会はマスクを着用しての実施となりました。

また、当初予定していたグループワークは行わず、講義のみの内容となりましたが、参加した教職員約60人は、いつにも増して熱心に講義を聴き入り、個人情報保護に関する知識を深めていました。



マスクを着用して講義する岡本氏



熱心に研修を受ける参加者

令和元年度学生表彰

(学 務 課)

例年実施している成績優秀学生、学長賞及びミント賞の受賞者に対する令和元年度学生表彰式については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を取りやめました。

受賞者については、学長賞の該当者はあ

りませんでした。成績優秀学生は優秀な成績を収めた学生12人、ミント賞は学会等から表彰を受けた学生や障がい学生支援に貢献した学生、課外活動で好成績を収めた学生11人と3団体が受賞し、表彰状並びに記念品が贈呈されました。

成績優秀学生

氏名等	所属学科・専攻
山口 天愛	機械工学科
古矢 達也	社会環境工学科
Li Zhichao	電気電子工学科
佐藤 航	情報システム工学科
定池 雅司	バイオ環境化学科
舟根 啓宏	マテリアル工学科
千賀 裕生	機械工学専攻
堀田 美月	社会環境工学専攻
菊池 直紀	電気電子工学専攻
桜井 翔	情報システム工学専攻
山口 花帆	バイオ環境化学専攻
北林 拓弥	マテリアル工学専攻

ミント賞

氏名等	所属学科・専攻
谷口 空	地域未来デザイン工学科
大場 光希	社会環境工学専攻
小川 かける	社会環境工学専攻
小原 総基	社会環境工学専攻
小浦 瑞生	社会環境工学専攻
中村 綾花	電気電子工学専攻
岩瀬 琴乃	マテリアル工学専攻
御厩敷 公平	社会環境工学専攻
後藤 雄介	社会環境工学専攻
新野 翔	電気電子工学専攻
Saadia Bouragba	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻
第1回 COC+地域 PBL 発表交流会 発表グループ	—
カーリング部	—
カーリング部女子チーム	—

= 日誌 =

2 月

- 1日 オホーツク農林水産工学連携研究推進センター第2回シンポジウム
- 3日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 4日 進路選択ガイダンス
- 7日 入学者選抜委員会
- 12日 大学院博士前期課程入学試験〈学力〉(第2回募集)、大学院博士後期課程入学試験〈面接〉(第2回募集)、オホーツク・スマート農業セミナー2020【畑作】
- 13日 大学院博士前期課程入学試験〈面接〉(第2回募集)、発明審査委員会、地域連携・国際交流委員会、A-STEP説明会
- 17日 入学者試験実施委員会、入学者選抜委員会
- 18日 経営改革推進会議、入学者選抜委員会
- 19日 教育研究評議会、オホーツク合同企業セミナー、私費外国人留学生入学試験合格発表、大学院入学試験(第2回)合格発表
- 20日 教務委員会、共用設備センター運営会議、合同企業説明会(～22日)
- 21日 学生委員会
- 25日 地元中小企業経営者と学生の懇談会
- 26日 役員会、個人情報保護研修、入学者選抜委員会
- 28日 ホームページ専門委員会、学術推進機構統括会議、入学者選抜委員会

3 月

- 2日 編入学入学手続(～9日)、大学院入学手続(～9日)
- 4日 アドミッションセンター運営会議
- 5日 入学者選抜委員会
- 6日 役員会、教務委員会、一般入試(前期日程)合格発表
- 7日 一般入試(前期日程)入学手続(～15日)、私費外国人留学生入学手続(～15日)
- 16日 教育研究評議会
- 17日 オホーツク人と環境プロジェクト運営協議会
- 18日 研究支援室会議、入学者選抜委員会
- 19日 発明審査委員会、地域連携・国際交流委員会、入学者選抜委員会
- 20日 入学者選抜委員会、一般入試(後期課程)合格発表
- 21日 一般入試(後期課程)入学手続(～27日)
- 25日 役員会、教務委員会
- 31日 広報誌編集委員会